**（参考：松沢研究奨励賞　Ｂ部門　受賞候補者提出文書プロット例）**

**※部門の提出文書については、特にきまりはないが、Ａ部門受賞者の提出文書として示している**

**次のプロット案を参考に、枚数にこだわらず、まとめるようにすることが望ましい。**

・Ｂ部門受賞候補者が受賞内容に関して作成するものは、おおよそ、次のようになる。

　①受賞対象となる研究内容をまとめた研究概要等の提出文書（プロット例を参考に作成）

　②友松会機関誌「友松」掲載の文書←Ｂ部門受賞者は概要骨子のみの予定

　③Ｂ部門受賞者が口述発表する場は、特に設けていない。

・受賞対象者が提出する①の文書は、取り組んだ研究内容に応じて執筆する。その参考例を「【友松会研究奨励賞　Ａ部門　提出文書プロット例】」として示している。

・「①受賞対象となる研究内容をまとめた研究概要等の文書」の書式の指定は特にないので、既に作成しているものがある場合はその書式を活かして良い。標準的なものを次に示しておく。

ワード標準書式（Ａ４横書き、40 字×40 行、8ページ程度を目安。写真、図表等を含む。

・提出文書、推薦書等は事務局で保管する。　　　　　Ｂ部門受賞者の枚数はこだわらない。

**※以下は、参考例なので、自分の研究内容に応じて自由に執筆してよい。→　Ｂ部門も同様。**

**【友松会研究奨励賞　Ａ部門　提出文書プロット例】→Ｂ部門受賞者はこれを参考にまとめるとよい。**

**Ⅰ　はじめに**

**Ⅱ　研究主題について**

**Ⅲ　研究仮説と研究方法（あるいは、研究の手立て）**

**Ⅳ　研究の計画**

**Ⅴ　研究の実際と考察**

**Ⅵ　研究の成果と課題**

・研究に取り組むきっかけとして、例えば、学校教育の抱えている課題や背景に触れるなどが考えられる。そして、その研究に取り組むことの必要性、また、これまでの取組での課題などを踏まえて研究の目的として述べていくなど、自由に書いていくことが考えられる。

・研究主題を設定した理由について述べる。例えば、「学校教育目標（学校の重点課題なども含む）の具現

化を図るために」や「県の教育研究会や市等の研究会研究主題等の実現を図るために」などが考えられ

る。また、児童生徒の実態との関連を述べることもよい。

・一方、社会の要請、例えば、学習指導要領との関連や教育行政との関連からも述べることができる。

・研究主題をどうとらえているのかを述べることもよい。

・「研究仮説」や「研究の視点」「研究の手立て」など、取り組まれている研究内容に応じて、自由に項目を

設定して述べる。「研究仮説」は必ずしも立てなくても良いが、「研究の視点」や「研究の手立て」など、研究を整理していくための方法に関して述べていくことが考えられる。「研究の視点」や「研究の手立て」を立てる場合、（１）・・・（２）・・・・と２点以上あるとまとめやすくなる。また、抽出児の変容をとらえていくことも研究方法の一つである。

・ある教科等の授業実践をもとに論じる場合、例えば、「単元名」「学習指導計画（学習指導の構想）」を書

くことも考えられる。また、具体的に単元の学習指導計画の中のある１時間の授業をもとに考えていく場合、「本時展開」を書き込むことも考えられる。

・研究の手立てや視点を踏まえて、実際の姿（授業記録や抽出児の記録、作品、写真等）から述べる。

・「Ⅴ　実際と考察」でまとめたことを整理してまとめて述べる。また、研究に取り組んだことを振り返

り、今後の課題を述べることも考えられる。